

東彼杵 ダラフ

13 / 23 郷 口木田郷

口木田郷の匂を満喫する散策へ。
春にふさわしい色とりどりの風景、
老舗の味噌づくりも、イチゴも、いよいよラストスパート。

偉人が歩いた

↑桜の山となつてご先祖さまも春の楽しみが増えた

平戸街道

このところ、次号掲載の地区のみなさんがそわそわしているのが感じられてうれしい限り。取材前に地区の人が魅力を教えてくれることもあり本当にありがたい。今回は口木田郷の歴史を勉強中という川口正志さんが、桜の開花状況などの情報をわざわざ役場まで届けてくれた。

郵便の配達で町内を回る川口さんは地理だけでなく、名所や史跡なども頭に入っている。口木田郷には平戸街道沿いの高台にたたずむ千部塔や、刑首という場所には落ち武者の塚があるとのこと。川口さんが歴史に興味を持ち始めたのは数年前。400年ほど続く大村藩士の家系だったという自身のルーツをたどっていると、どんどのめり込んだ。「きっかけはその昔、伊能忠敬がうちに寄ったというのがわかったから」と川口さん。『測量日記』を見せていただくと、確かに川口六右衛門宅で昼休みとの一文があった。

「金谷の思案橋から出発してうちで休憩したと。藩士家系図『新撰土系録』やうちに残った古い資料を確認してみると、川口六右衛門は間違いなくご先祖様だった。この話はたぶん私が伝えれば途切れるでしょ」

東彼町軒の平戸街道ガイドができるようになるまで、休日は資料館や図書館通いが続く。

↓心地よい潮風に花びらが舞う、風光明媚な地にある口木田千部塔



アントシアニンを豊富に含む
「さちのか」は濃い赤色が特徴→

↓旬の味覚をふるまってくれた宮脇さん



花より 幸せの香り



口木田郷は地区でまとまり「桜と花の里づくり」をしていると川口さんから聞いていた。歩いているとつい花に目がいつてしまう。と言うか、それだけ視界に花が飛び込んでくる。国道沿いの木工所近くには桃やら桜やら菜の花やらいろいろすごい。公民館の近くでは桜の大木が圧倒的な存在感で私たちを引き寄せる。ほかにも古い桜の木が点在していてどれも見応えがある。海岸沿いの桜も見事だった。千部塔のそばでは寄り添うように大村湾を見つめていた。

「桜と花の里づくり」の中心人物という宮脇喜八郎さんにビニールハウスで出会った。ちょうどイチゴの摘み取りが終わり、軽トラックの荷台に積んでいるところだった。「国道の向こうにお墓の山があるんやけど、あそこが荒れてしもうて

ね。これはいかんとなってみんなで草払いをしょって。それだけじゃご先祖さまが寂しからうからと植樹した」と手を休めて笑顔で話す。

花より何とか。話を聞きながらちらちらと荷台を見ていたからか、「おー食べ、食べ。こういうタイミングはなかなかいけん」と甘くて美味しそうなイチゴを選びすぐってくれた。「こいは“さちのか”。粒が小さくなったけん、そろそろ終わりかな」。甘さと酸っぱさのバランスがちょうどよく、まさに甘酸っぱくて美味しい。食べ始めると止まらなくなり、気付くとリスのようにほっぺたが膨らんでいた。「いいのいいの。生産者は美味しいって言うてくれることが一番うれしかけん」と最後まで優しい宮脇さんだった。

上 もろふたという木箱を使った麴づくりが特徴。
期間中は何度も、見て触って食べて確認する
中 ボイラーの蒸気で蒸した麦をならした後、麴室でひと晩寝かす
下 味噌づくり以外では今どきの25歳だった大渡さん（左）

若き職人が咲かせる 白い麴花

国道を車で走っていると、花とともに気になるのが大きな樽。口木田郷に店を構えて40年近くという大渡商店のシンボルだ。年に2シーズンのみ行う味噌づくりの最中ということで見学させていただいた。「2～4月と、お盆明けから10月に味噌づくりをしています。うちの麴室では熟成、発酵、貯蔵するには一番いい時期なんです」と若き3代目の大渡康平さんが対応してくれた。

「味噌づくりというよりも麴づくりが一番大変なんです。うちのような古い建物の麴室では温度管理が難しい。麴ができる期間は昼夜と見ていなければなりません。寒ければストーブをつけて、熱ければ扉を開けて。麦1粒1粒に白い麴が付いてブロック状になるのが理想。うちは防腐剤とか着色料とか味付けを加えていませんので、麴がうまくできれば味噌は自然と熟成しますから」と大渡さん。ひと通り説明していただいたが、知識が豊富でわかりやすく、そして熱心。

大渡さんは味噌づくりはもちろんのこと、営業、販売、イベント出店など、すべてをこなして店を切り盛りする。「古くさいものを作っているかもしれませんが、これからも変わらず守っていきたいですね」ととてもたのしかった。

表に出ると、山道に植樹したばかりの桜が見える。若い木でもしっかりと花が開いていた。

※口木田郷へは、町営バス「口木田」のバス停を利用。



次回は平似田郷。お楽しみに！